



左から阿部日身連会長、神門副知事、岡本岐阜県身連会長

4月20日(木)、第62回日本身体障害者福祉大会開催を目前に控えた岐阜県に阿部一彦会長が訪問、大会運営事務局である岐阜県身連協会の岡本敏美会長とともに、神門純一岐阜県副知事にお会いし、大会の成功に向けた県の協力をお願いするとともに、会場となる「岐阜メモリアルセンター」で「愛ドーム」などの視察を行いました。

ぎふ清流大会の成功に向けて 岐阜県副知事を表敬訪問

日身連

発行所
社会福祉法人
日本身体障害者団体連合会
(中央障害者社会参加推進センター)
発行人 阿部一彦
東京都豊島区目白3丁目4の3
ディアダックビル4階
TEL03-3565-3399(代)
FAX03-3565-3349
http://www.nissinren.or.jp
Japanese Federation of
Organizations of the
Disabled Persons (JFOD)
年間購読料 正会員1部 300円
非会員1部 1000円

岐阜県庁の知事応接室で神門副知事と対面、岡本会長は、「亡くなられた松井逸朗前会長は、日身連の全国大会をぜひ岐阜県でという思いでおられた。その遺志を実現させるために限られた時間の中で、県をはじめ多くの関係者の方の支援と協力でここまでできた。ぜひ大会を成功させたい」と述べられました。阿部会長は、「今年の政策協議のテーマは『ユニバーサルデザイン2020行動計画がめざす共生社会の実現と障害者団体の役割』で、この協議を通して、行動計画についての理解を深めるとともに、岐阜県におけるこれまでの取組なども踏まえながら、私たち障害当事

者団体が果たすべき役割の大きさを積極的に発信していきたい」とアピールしました。
神門副知事は、「2020年はオリパラだけでなく、当県で『ねりんピック』の開催が決定している。高齢者が主役の祭典だが、開催にあたってはぜひ障害のある方の視点も取り入れて進めていきたい」と述べられ、5月11日から始まる長良川名物の鵜飼も「ぜひご覧になってほしい」と笑顔で語られました。

平成28年度中央障害者社会参加推進協議会 UD2020行動計画で意見交換

3月24日(金)、東京都障害者福祉会館(東京都港区)で中央障害者社会参加推進協議会(協議会)ならびに三障害別部会の合同委員会を開催しました。この協議会は日身連が実施する、中央障害者社会参加推進センター(中央センター)の運営に関わる事項を検討するため、中央の障害関係25団体で構成されています。

会議では冒頭に、昨年7月神奈川県障害者施設殺傷事件で亡くなられた方々と、2月9日に逝去された妻屋明全国脊髄損傷者連合会代表理事(協議会構成委員)のご冥福を祈り、黙祷をささげました。日身連会長として協議会の委員長を務める阿部会長のあいさつの後、平成28年度中央センター事業の活動状況報告と決算見込み、29年度

その後、大会会場となる「愛ドーム」をはじめ、県が障害関係の施設を一体的に整備している「ぎふ清流福祉エリア(※)」を視察しました。なお、このエリアは大会1日目の施設見学でご覧いただくことができます(要事前申込み)。
※岐阜県が、障害のある方のための福祉、医療、教育、文化芸術、スポーツ及び就労施設を一体的に整備を進めているエリア。現在は6つの施設があり、今後の計画を含めると9つの施設がこのエリアに整備される予定。

事業計画と予算案が議案として検討され全会一致で了承されました。

議事の後には阿部会長の進行により、2月20日に関係閣僚会議で決議された「ユニバーサルデザイン2020行動計画」を参考資料として、意見交換を行いました。委員からはとくに心のバリアフリー分野について、今後の施策の取組に期待する意見のほか、障害分野だけでなく、高齢者・子どもなどあらゆる分野に心のバリアフリーの課題があることを踏まえた横断的な視点、取組が重要であることなどさまざまな意見が出されました。
合同委員会には厚生労働省から度会哲賢自立支援振興室室長補佐に参加いただき、中央センターと連携して今後も取り組んでいくことを確認しました。